

獣害対策は集落環境点検から ～ ヒューマンエラーの排除を目指して～

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

獣害対策の最大の目的は「里のエサ場価値をなくす」ことにあります。しかし、県内集落で取り組まれている対策は、勘違いや誤った対策、効果の期待できない対策などの事例が意外にたくさんあります。結果として、こうした無意識の餌付け行為が繰り返されているのは「人」そのものの問題であり、正しい情報や手法が伝えられていないことの裏返しであります。ひとり一人が「里のエサ場価値をなくすために」どうすれば良いかが判断できるようになれば、ヒューマンエラーが引き起こす獣害問題は解決につながります。

集落環境点検は、住民が獣害対策に対する気づき、意識を変えていくための手法として有効であり、また、個人の対策から集落ぐるみの対策へと誘導していく手段として効果的な取り組みです。集落環境点検活動を基本とした集落ぐるみの取り組みが県内各地で拡大できるよう、地域の取り組みを支援しました。

【普及活動の成果】

1．各地域のモデル集落で集落環境点検活動を支援

地域ごとに設定されたモデル集落で、点検活動の実施手順や方法を指導するとともにヒューマンエラーの実態を現地で住民や関係者が確認し、効果的な被害防除対策への理解を深めました。今年度地域農産普及課が核となり、県下29集落で点検活動が取り込まれました。

2．点検活動後の支援

集落が行う具体的な対策については、点検活動に基づいて緩衝帯の造成、効果的な物理柵の設置・管理方法等について地域の農産普及課とともに支援をしてきました。

3．人材育成

普及指導員のスムーズな現場対応を支援するため、研修会を充実し資質向上を図りました。内容は、新しい獣害柵の設置実習、緩衝帯の造成法、GISを活用した点検マップの作成、集落の合意形成の図り方、集落環境点検後のフォロー活動等です。捕獲技術の習得やテレメトリー調査の研修も大事な課題となっています。

【今後の課題】

こうした活動の結果や成果について、次年度アンケート調査で確認・検証していく予定です。



集落点検マップの作成風景



緩衝帯造成の研修